

漢法苞徳塾資料	No. 266
区分	治療論・補瀉
タイトル	補瀉の選択表
著者	八木素萌
作成日	1992.11.20

## 『靈枢』根結第5

	形気の虚実	病気の虚実	施術の補瀉
A	有余 (実)	有余(大過)実	急ぎ之を瀉してのち其の虚実を調べよ
B	有余 (実)	不足(不及)虚	急ぎ之を補せ
C	不足 (虚)	有余(大過)実	急ぎ之を瀉せ
D	不足 (虚)	不足(不及)虚	不可刺 [甘薬もしくは気海に灸]

- (1) 汪機 『鍼灸問対』の解説的な記述を参考にして作表した。
- (2) 形気の有余・不足については、形＝筋骨、気＝心肺機能が有余であるか、反対に不足しているかということ。
- (3) Aの「之を瀉す」とは病邪を瀉す。「其の虚実」とは経脈・蔵府に見られる所と解釈する。
- (4) Bは筋骨も心肺機能も「実」であって、病邪に侵されにくいのに病んだのである。故に「補」のみで治癒するということである。
- (5) 病気の有余≡大過≡実は『難経』9難・15難などに記述されているように、「外感病」である。故に、これを瀉すことによって、体調が回復するのである。
- (6) 病気の不足≡不及≡虚は「内傷病」として『難経』に記述されている。故に七情の様相と五蔵の虚実の関係によって、Bの「補」の内容が決定されることになる。
- (7) Cには「補」が記述されていない。この場合は病邪を瀉せば体調が回復していくことになる。